


2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

## 世界に希望を生み出そう

●会長 中島 祐爾  
●幹事 緒方 公一

 No.1833 令和 05 年 09 月 27 日 第 10 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email [serc@serc2720.org](mailto:serc@serc2720.org)



世界に希望を生み出そう



### ■点鐘

### ■国歌斉唱「君が代」

### ■ロータリーソング「手に手つないで」

(ソングリーダー 古田哲朗)

### ■委嘱状授与

2024~2025年度

熊本第3グループガバナー補佐山田公也会員

### ■会長の時間 (会長 中島祐爾)

和歌山東南ロータリークラブ例会訪問

9月20日熊本東南ロータリーメンバー10名とパートナー2名の合計12名で福岡空港から関空へ向かいました。

前回訪問したのは2019年9月で4年ぶりに和歌山の皆さんとお会いしました。

関空に到着すると和歌山東南ロータリー塩崎会長はじめ数名の方々が迎えてくれました。

バスをチャーターしていただきホテルへ向かいその後18:30からの例会に参加しました。

当日は昼の例会で外部卓話の予定だったのですが、時間と外部卓話の方も変更していただいたということでした。

例会の席の配置うちのクラブ例会と少し違い、例会内容は違いはないのですが結婚祝いの歌を歌ったり会長の時間が紹介くらいの簡単なものでした。

うちのクラブメンバー全員紹介されその後私の挨拶、そして今回の目的でもある来年4月開催の40周年イベントへの参加お願いを内田実行委員長からしていただきます。



その後懇親会で皆さんと親睦を深め2次会から3次会まで楽しく過ごしました。

3次会では内田実行委員長は口を大きく開け爆睡でした。次の日はゴルフ組(大阪ゴルフクラブ)と観光組(高野山)に分かれて楽しく過ごしてきました。

ゴルフは内田実行委員長が優勝しました。高野山では希望していた精進料理を頂いたそうです。

今回初めて和歌山を訪問するメンバーも多く懇親を深めることができ大変良かったと思います。

### ■幹事報告 (幹事 緒方公一)

#### ■来信案内

1)

三村彰吾 ガバナーエレクト、西山晃史 次年度地区幹事より、2024~2025年度 地区委員推薦のお願い。(10月31日メ切り)

※既に RI 第 2720 地区から次年度委員会についての打診を受けている方がいらっしゃいましたら、10月4日の熊本東南RC定例理事会までにお知らせいただけると有り難く存じます。何卒よろしくお願いいたします。

※今年度地区委員・・・古田哲朗会員(次年度部門長推薦済み)、彌富照皇会員、山田公也会員、宮川義行会員

2)

膳所和彦 ガバナーより、ガバナーノミニニー・デジグネート決定の報告。

ガバナーノミニニー・デジグネート(2026~2027年度ガバナー) 人吉ロータリークラブ 延岡 研一(のべおかけんいち)氏

#### ■クラブより

1)

本日例会終了後に、第1回臨時理事会を開催いたします。



## ■今後の行事

2023	10月14日(土)	ロータリー財団・会員 増強合同セミナー	大分県日田市	日田市大山文化 センター
		彌富照皇		
	10月22日(日)	日田RC創立60周年 記念式典	大分県日田市	マリエールオー クパイン日田
		中島祐爾、前田日出夫、彌富照皇		
	10月28日(土)	九州4地区合同公共イ メージ向上イベント「ポ リオ根絶チャリティー バザー」	大分県日田市	大分駅前、他
		前田日出夫、彌富照皇		
	11月25日 (土・日)	第39回ローターアクト 年次大会	熊本県熊本市	熊本B.9、コン フィホテル
		杉本整哉		

## ■ロータリー情報

(ロータリー情報担当 鈴木義親)



## ■委員会報告

(ロータリー財団 彌富照皇)

世界ポリオデー in 熊本

「世界ポリオデー × 子どもたちにク  
ラシック音楽を」について

2023年11月23日(月)

19時開演、熊本市市民会館シアーズホ  
ム夢ホール



## ■委員会報告

(青少年奉仕担当 杉本整哉)

九州4地区合同公共イメージイベ  
ント「ONE Q-shu」ポリオ根絶募金活動協力  
のお願いについて

2023年10月28日(日) 12時  
～15時(3時間)、大分駅前中央通り、  
竹町ドーム広場中央通り、中央町商店  
街西側(3カ所)



## ■出席報告(出席・プログラム担当 生駒ちあき)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出 席者数	出席率 (%)
06月06日	44 (免3) 41	29	4	33	80.49
09月13日	44 (免3) 41	29	5	34	82.93

09月20日	休会				
09月27日	44 (免3) 41	30 Zoom2			73.17

☆出席免除

09月06日～09月27日

住江正治 島村徹男 志賀重人

☆欠席者

09月06日(8名)

川崎直樹 渡邊俊一郎 小野川善久  
堤 勝也 武末直大 徳永貴子  
山本浩之 矢野敬之



09月13日(7名)

出先教明 川崎直樹 小野川善久  
武末直大 徳永貴子 山本浩之 矢野敬之

## ■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 山坂哲生)



◎内田信行 5,000円

40周年の案内に和歌山  
に参加して頂いた皆様、  
大変お疲れ様でした。毎  
回、麻美ちゃんの動画編  
集ありがとうございます

す。あつという間の楽しい旅でした。また、和歌  
山東南ロータリークラブの歓迎ぶりに感謝してスマイルします。



◎永野昭一 5,000円

結婚記念のお祝いありがとうございました。当ク  
ラブの設立と同じですので、40年になります。ル  
ビー婚だそう。近頃は、クラブのお祝いをい  
ただいて記念日に気づくようになりました。

ルビーは真っ赤な深紅の宝石で、その固さは宝石  
のなかでもダイヤモンドの次に固いと言われてい  
ます。その宝石のように、これまでの長い月日の結婚生活が深紅の  
赤のように情熱的で、宝石のように固いぎずなで結ばれているとい  
う事を意味し、ルビー婚式の由来となっています。



◎宮川義行 4,000円

先日、西原村のマロンの樹で栗拾いをしました。  
大きな栗の木の下で拾っていると、後ろでバチッ  
とはじける音がしたと思ったら、イガ栗が落ちて  
きました。トゲに刺さりながら剥こうとすると、  
イガ栗の取り方を教えてくれました。靴でイガの  
口の開いている方を踏んで広げると中の栗が出て  
きます。トゲの痛いのが美味しいと聞きました。これから関西に出  
荷した後、残った栗を分けてもらうようにしました。秋が近づいて  
きましたね。



◎松本繁 3,000円

先週、和歌山東南ロータリークラブを訪問された皆様、大変お疲れ様でした。40周年の成功へ向け大きな布石となったと確信し、感謝のスマイルです。



◎潮谷愛一 2,000円

慈愛園 100周年について論文3つ、東京講演と忙しい80年代となりました。



◎中島祐爾 2,000円

先週和歌山東南ロータリークラブへ行かれたメンバーの方。お疲れ様でした。帰りの飛行機、なんとか夜10時までに福岡空港へ着けてよかったです。

## ■会報・雑誌委員会卓話

(会報・雑誌担当 西田智史)

ロータリーの友 卓話

ロータリーの友は国際ロータリーの認可を受けロータリーグローバルメディアネットワークの一員として発行されている雑誌です。

友はロータリアンがロータリーライフを深めるためそしてクラブがRIとのつながりを実感するためにも必要な媒体となっています。

「ロータリーの友」の名称は第二回準備会での投票によって遠藤健三氏提案の「ロータリーの友」に決定しました。

この名称に対し柏原孫左衛門氏がおつまみの「ビールの友」からヒントを得たのではと発言、一同爆笑となったそうですが遠藤氏自身は後日談として月刊誌「主婦の友」からヒントを得たと述べています。

ロータリーの友は基本的にロータリアンのための機関、情報誌です。横組みのページにはRIの下で記事、ロータリーの特別月間の関連記事、特集、竹矢クラブの活動等を掲載しています。

横組のページにはロータリアン個人としての意見や経験談、俳句や短歌の投稿、職業上の知識などを掲載しています。

会員歴の浅い方やロータリアン以外の方がお読みになってもロータリーの理念や活動がお分かりいただけるよう編集しているそうです。

同時に役立つ生活情報、社会の話題を取り上げることで内容の充実を図っているそうです。

「友」は社員、理事会、職員により構成される一般社団法人ロータリーの友事務所によって発行運営されています。「ロータリーの友委員会」はロータリー期間雑誌発行に不可欠な条件の1つとして設けられている委員会で正・副委員長、RI理事、RI理事エ



クト特別顧問、顧問、相談役、地区代表委員、編集長により構成されています。

ロータリーの友委員会委員長はガバナーに対して「友」発行について責任をおうと同時に一般社団法人ロータリーの友事務所理事会が決定し、ロータリーの友委員会が全面的に監督します。祝代表印は委員会への出席毎月提出りレポートでの「友」に対する評価、提言、委員会事業の地区会の広報、地区内のクラブ活動に関する情報の提供等を主な任務としています。

## ■点鐘

編集 西田智史

### ポリオ根絶のために笑顔で走る

投稿日：9月15, 2023 投稿者：rotarymasa

昨年、ポリオ根絶のためのファンドレイジングを立ち上げ、ロードバイクで日本縦断を達成したガバナーエレクトが、今年はガバナーとして、ポリオプラス・ソサエティの推進のためにペダルをこぎます。



昨年、ポリオプラス基金への寄付を募るため、自転車での日本縦断チャレンジに挑んだ宮崎陽市郎さん（東京三鷹ロータリークラブ会員）。地区ガバナーに就任した今年、ポリオプラス・ソサエティを促進するために新たなチャレンジに挑みます。写真をクリックすると、別のページで拡大してみることができます。

第2750地区ガバナーの宮崎陽市郎さん（東京三鷹ロータリークラブ）が昨年11月に挑んだ道のりは、宗谷岬（北海道）から佐多岬（鹿児島）にいたる約2,750キロメートル。その走行距離は、米国メイン州にあるカナダとの国境から南端フロリダ州のオーランドまでの移動距離にも勝ります。平坦な道ばかりではなく、海岸沿いでは強風に襲われます。長く暗いトンネルではバランス感覚が麻痺し、経験者曰く、上り坂なのか下り坂なのか、まるで「空中をこいでいる」ような危険な状況に陥ることもあります。

宮崎さんは、この道のりを10月上旬から世界ポリオデーにかけての約3週間で走破しました。道中、同期のガバナーが応援に駆け付け、地元会員のほか、市長や一般人、北京オリンピックに出場したロードレース元全日本チャンピオンも一緒に走るがありました。それぞれの日のゴール地点には、宮崎さんの無事を祈り、直接会ってエールを送ろうと集まった多くの会員がいました。ゆく先々での人との出会い。「最初から最後までずっと楽しかった」と、宮崎さんは清々しい表情で話します。また、チャレンジの規模の大きさから、ジョン・ヒューコ国際ロータリー事務総長からの応援ビデオメッセージも寄せられました。



チャレンジの道中、END POLIO NOW のメッセージが施された伴走車が宮崎さんをサポートしました。今年度、宮崎さんはこの車を運転して地区内クラブを訪問しています。

メディアやサポーターからの注目が集まる中、背後から宮崎さんを支えた人もいます。東京ピースウィング・ロータリーEクラブの田嶋諒一さんです。宮崎さんと同じくロータリー出身の田嶋さんは、社会保険労務士としての忙しい日々の中、チャレンジ用に改装された伴走車に乗って走行を見守り、ソーシャルメディアでの情報発信を担いました。日を重ねるにしたがって応援の声が高まり、メディアや地元会員からの連絡も増え、ガバナー事務所だけでは対応できなくなりました。まるで人気タレントのマネージャーになったようだったと田嶋さんは振り返ります。

チャレンジ発案のときから宮崎さんを支えてきた田嶋さんは、当初、「本当に3週間でできるのか」と不安を抱きました。実際、チャレンジの序盤で悪天候や自転車の故障に見舞われ、ペースを乱される事態が続きました。それでも、「宮崎さん本人が誰よりも事態を楽観視していた」と話し、その「あふれるようなバイタリティ」を身近に感じながら難所を共に乗り切りました。

Eクラブ会員として直接に人と会う機会に限られる中、チャレンジを通じて日本国中の会員との繋がりが実感できたと話す田嶋さん。以前はロータリーの「行動人」という表現がピンとこなかったけれど、宮崎さん一人で始めたことがやがて大勢を巻き込んでいく様子を見ながら、一人ひとりが行動することの大切さを学んだと話します。

### 3つの大きな成果



最終日のゴール直後、仲間のロータリー会員が宮崎さんを祝福。

ポリオに対する認識を高めるといった目的は見事に果たされました。新聞社やケーブルテレビなど、10社を超える報道機関から取材を受け、ポリオ根絶のメッセージを伝えました。休憩中、かけ寄ってきた二人の一般人女性から「テレビを見たので寄付したい」との申し出を受けたことがありました。チャレンジ中に起きた路上でのこと、現金は

受け取れなかったと残念そうに話す宮崎さんですが、その声には、ロータリーを超えてポリオ根絶のメッセージを届けられたという嬉しさがにじみ出ていました。

また、宮崎さんはこのチャレンジを通じて、ポリオプラスへの約2,000万円のファンドレイジングを達成しました。欧米諸国と比べて個人によるファンドレイジング文化が浸透していない日本において、こ

の額は驚くべきものです。個人、クラブ、地区からの寄付に加えて、企業からの支援もありました。

さらに、リーダーとして自ら行動することで、行動することの重要性を会員に伝えることができました。このチャレンジに触発され、「自分も何かやってみよう」と感じたクラブや地区のリーダーは大勢います。第2750地区ガバナーとなった今年度、地区会員には「行動しなけりゃ意味ないね」と、あえて挑発的なフレーズで行動を喚起しています。ただし、そう呼びかけるには自らが行動で示さなければなりません。トレーニングと食事制限を続けてきた心身は、そんな重圧にも耐える活力に満ちています。

### 新たなチャレンジ



インタビュー中も地区運営のためのメールや電話を次々と受けていた宮崎さん。「失敗しても、うまくいかなくても、何か変革を起こすためにチャレンジしたクラブはすべて表彰したい」と話します。

いつかジョン・ヒューコ事務総長と一緒にアリゾナでの Tour de Tucson に参戦したいと話す宮崎さんは、今年の世界ポリオデーに合わせて新たなチャレンジに挑みます。それは、新潟の海辺の街から東京のお台場までの約300キロメートルを自転車で移動し、ポリオプラス・ソサエティへの参加を会員に呼びかけるというもの。しかも、今年度はガバナーの任務で忙しいため、わずか1日という厳しい時間制限をかした挑戦となります。

昨年のチャレンジを通じて、ポリオ根絶に対する自分の思いを人に伝えるという意志が固まりました。明るい人柄と笑顔で人を優しく勇気づける宮崎さんは、300キロメートルの道のりを「笑顔で走る」と話します。過酷なチャレンジなのに、どうして笑顔で走ると言えるのか。それは、ロータリー会員への揺るぎない信頼があり、その繋がりが生み出す特大のインパクトを知っているからです。走るの一人、しかし多くのサポーターから寄せられる熱い思いが、ペダルを踏みこむ彼の両脚を支えています。

10月24日の世界ポリオデーに向け、共に行動し、ポリオを根絶しましょう。

(執筆担当：加藤まさ)

ロータリーボイスより

